

平成 26 年度第 1 回社会保険等システム検討委員会議事録

日時：平成 26 年 4 月 26 日（金）AM7:00~8:10

場所：国立京都国際会館 5 階（554B）

出席者：川上紀明（担当理事） 原田繁（委員長） 平泉 裕（副委員長） 伊藤淳二、遠藤健司、川口善治、
武富英二、山縣正庸、青田洋一（アドバイザー）

報告事項

1. 平成 25 年度の活動報告が資料にて報告された。

- ・平成 26 年度診療報酬改訂要望項目の結果報告

以下を要望したが、いずれも今回は考慮されなかった。

新設

- ・超肥満患者の脊椎手術における技術料の加算（手術難易度、手術時間が通常より異なる）

データをさらに多く集める必要がある。

- ・内視鏡下椎弓形成術（これから普及が見込まれる新規術式）
- ・経皮的内視鏡下椎間板切除術（これから普及が見込まれる新規術式）

この 2 術式については、合併症やモラルハザードの問題があるので、次回要望は見送り、従来ある術式を準用して算定することとなった（準用となるので査定される可能性も懸念される）

また、次回全国整形外科保険審査委員会議で、算定の現状を調べていただくことを依頼することとなった。

- ・分層自家骨髄血移植（陳旧性椎体骨折、難治性椎体骨折に適応。自家骨髄血中の血漿・赤血球成分を除去して得られた成分を、骨壊死・骨癒合不全部位に移植し、骨新生を図る術式。）
椎体骨折のデータが不足しているので次回は他の学会から申請した方が適切である。

改正

非観血的頸椎整復術

現在の算定条件の拡大。「頸椎椎間板ヘルニア及び頸椎骨軟骨症の新鮮例に対する頸椎の非観血的整復術（全麻、牽引による）を行った場合に算定する」

材料要望

以下の材料が償還対象となるように要望した。

- ・脊椎手術時のマイクロドリル（ハイスピードドリル）用のダイヤモンドバー及びスチールバー、
- ・顕微鏡使用手術での清潔カバー、
- ・脊髄硬膜閉鎖用クリップ

2. 厚労省ヒアリング報告

8 月 19 日に開催された厚労省ヒアリングに川上理事、原田、平泉、遠藤委員が出席し、経皮的内視鏡下椎間板切除術の術式を説明した。

3. 平成 26 年総会における社会保険関連教育研修講演企画報告

手術症例登録の必要性を会員に認識していただくために、外保連手術委員長の東京大学大学院医学系研究科小児外科岩中督教授による演題名「National Clinical Database の意義と現状」の教育研修講演を企画した。

確認事項

目安箱のパスワードの確認

User IDは（HP議事録にては省略）

パスワードは（HP議事録にては省略）

目安箱の利用者が少ないのでさらに普及させる方法を検討することとなった。

審議事項

1. 手術登録制度の検討

診療報酬改訂に必要な手術材料等を含む手術症例のデータ登録システムの構築は、日整会では具体的に進展がないので、当委員会で行い、まず評議員のいる病院で登録を始める方向で検討することとなった。

2. 平成 28 年度診療報酬改訂に向けての要望項目の検討

- ・外保連スケジュールに間に合うように、目安箱を利用するなどして広く会員から要望を吸い上げてから当委員会で検討することとなった。
- ・日整会社会保険委員会から、軸椎前方固定術、腰椎分離部固定術、透析患者の加算の新設の要望があるので、上記と併せて検討することとなった。
- ・脊椎手術で複合手術の加算が可能となったが、側弯症手術には加算がないのは不合理であることから複合手術とするか複雑なものを新設するかで検討することとなった。
- ・脊髄腫瘍の手術も摘出後に固定術が必要となることもあるので側弯症手術と同様な検討をすることとなった。

3. 委員の任期満了に伴う交代とそれに伴う外保連委員の担当変更

現委員は、実務委員会（平泉、遠藤）、手術委員会（平泉、遠藤）、処置委員会（山縣）、検査委員会（青田）、広報委員会（久野木）、規約委員会（青田）、麻酔委員会（久野木）、画像診断試案WG（遠藤）であるが、次期委員会で平泉、久野木両先生の後任を決めていただくこととなった。

以上